



公立大学法人富山県立大学

News Release

富山県立大学

○本事業に関するお問い合わせ：

地域協働支援室

ＣＯＣコーディネーター 塚 勇人

電話：0766-56-7500（内線）632

事務局教務課教務係 野田（内線）221

平成30年7月13日

南砺市南蟹谷地区における地域課題解決へ向けた学生の取組みについて

本学学生が南砺市南蟹谷地区の地域課題に取り組んでいます。この度、下記の活動を行いますので、ご案内します。

- 1 日 時 平成30年7月15日（日） 7:50～15:00
- 2 場 所 富山県南砺市 福光農業協同組合南蟹谷支所
南砺市砂子谷1390
- 3 担当学生 富山県立大学 工学部1・2年 教養ゼミ/トピックゼミ受講生 28名
- 4 指導教員 教養教育（物理学） 福原 忠 教授
- 5 協働相手 南蟹谷地区（自治振興会長：西村信二）、福光行政センター、
南砺市地方創生推進課（担当：河合氏）
- 6 当日連絡先 090-8092-9979（自治振興会長 西村氏携帯）
- 7 内 容 南砺市南蟹谷地区では、高齢化・人口減少に伴う①イノシシ電気柵管理に関する問題（設置・撤収や除草作業が困難）②地域特産品ぎんなん収穫に関する問題（拾い手不足／拾う作業が困難）が地域の課題となっています。本学の福原ゼミは、一昨年度より南蟹谷地区での活動に参加しており、昨年度は、南砺市と本学にて締結された連携協定の下、地域課題解決に取り組みました。※1。
3年度目となる今年度も、ゼミ生を一新し継続して取り組んでおり、今回はイノシシ電気柵設置を地域の方と協働で行います。
- 8 スケジュール
7:50 農協 着 2地区に移動し作業開始（小又地区、蔵原地区）
12:00 昼食（小又公民館、蔵原公民館）
13:00 作業再開（農協へ戻る）
14:40 作業終了
15:00 農協 発
- 9 今年度の取組
・5月31日：現地訪問（下見及びヒアリング）

※1 昨年度の実績（参考）

教養ゼミによる南砺市との包括連携協定事業の推進

教養教育

福原 忠 教授 教養ゼミ × 南砺市、南蟹谷自治振興会

福原ゼミでは南蟹谷地区（南砺市）の地域課題（①獣害対策のための電気柵設置と維持（除草）の労力軽減、②地域住民の高齢化による特産品のぎんなん収穫の人出不足）の解決を、南砺市との包括連携協定事業の一環として取り組んだ。①については、実際の畦畔にカバー・プラント（イワダレソウ類、ノシバ等）を植え、除草の労力軽減の実証実験を行った。またゼミ生による電気柵設置体験も行った。②についてはぎんなんを拾う補助具として、梅農家が使っているネットを実際に用いて、収穫（ぎんなん拾い）の手間が軽減するか実験を行うとともに、ぎんなん拾いにはゼミ生も参加して収穫を手伝った。また、この活動をする中で地元から要請があった「新しいぎんなんレシピの開発」にも取り組み、地域のイベント（ぎんなんフェスタ 2017）へ参加、ゼミ生が考案したぎんなん料理の試食会を行った。また、これらの活動を SNS や web ページの開設を通じて、積極的に発信を行った。

これらの活動に際して、ゼミ生を4つの部会（企画、広報、研究A(①)、研究B(②)）に分けた。それぞれの部会で、学生は熱心に課題解決に取り組んでいた。特に企画部には、地元との連絡調整、各イベントへの参加準備など、平生、授業やサークル活動をかかえる1年生に対してかなり過酷な要求をしたと感じたが、非常に責任感をもってやり遂げてくれた。

成果として、イワダレソウ類は育成が早いので、カバープラントとして推奨されているが、実際に植えてみると、カタバミなどの雑草コロニーが容易に形成するなど、カバープラントには不適である事がわかった。一方、現地調査によって過去ノシバを植付けた畦畔は現在も防草効果が高く、この地域のカバープラントとして適していることがわかった。

これらの活動を通じ、教育を通じて地域と大学が連携することが、高齢化が進む中山間地の地域課題を解決する有効手段になると考えた。今後も実証活動を続けるつもりである。

